



日邦産業株式会社

(証券コード : 9913)

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年 11月29日

代表取締役社長

岩佐恭知





I 会社概要

P2~P6

II 2020年3月期 第2四半期決算ハイライト

P7~P13

III 長期ビジョン

P14~P18

IV 参考資料

P19~P23



I 会社概要

2019年9月30日現在

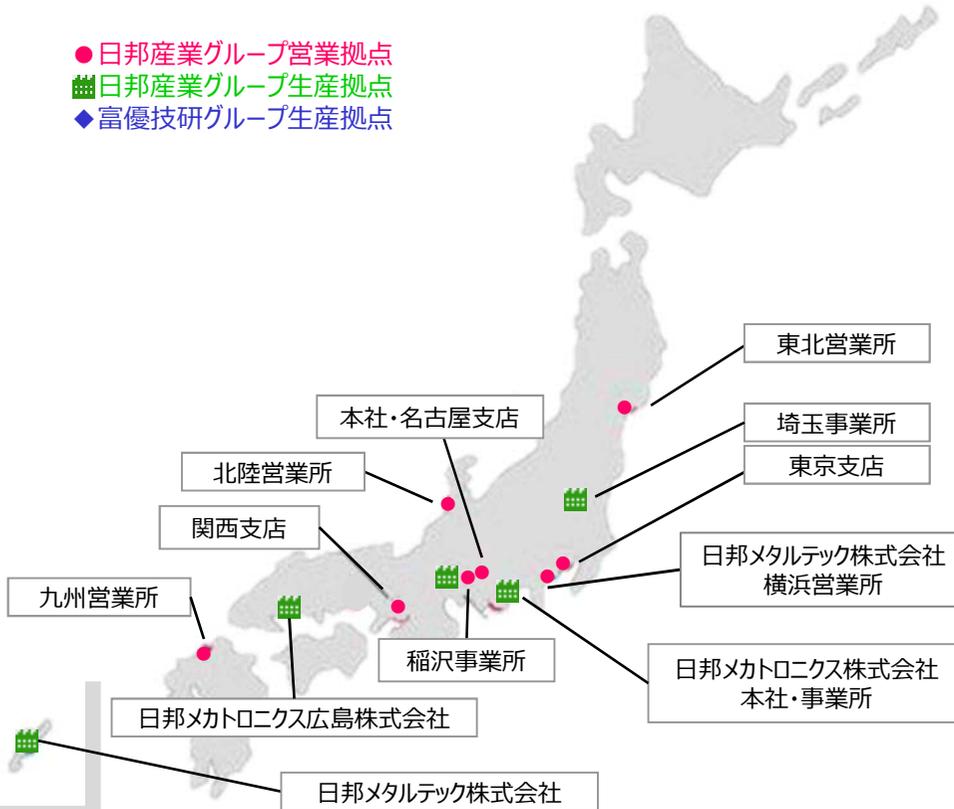
商 号	日邦産業株式会社（英字名：NIPPO LTD.）
本 社	愛知県名古屋市中区錦一丁目10番1号
設 立	1952年 3月 6日
資 本 金	31億3,775万4千円
代 表 者	代表取締役社長 岩佐 恭知
従 業 員 数	（連結） 3,642名 （単体） 317名

国内外ネットワーク

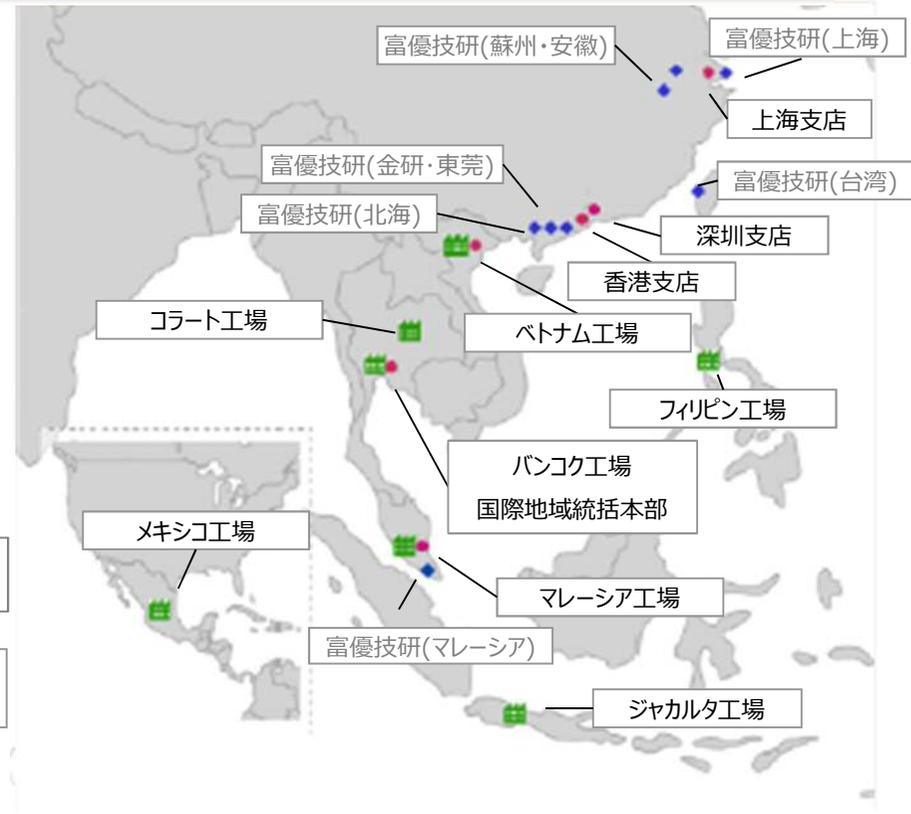


グローバル化を進めるお客様のビジネスパートナー

- 日邦産業グループ営業拠点
- 日邦産業グループ生産拠点
- ◆ 富優技研グループ生産拠点



- 営業拠点8カ所、生産拠点5カ所



- アセアン・中華圏・メキシコに営業拠点6カ所、生産拠点7カ所
- 中華圏(富優技研：業務提携先含む)に生産拠点8カ所

～ 国内外のネットワークでお客様に良質で最適な製品・サービスを提供します。～

経営理念

新しい価値の創造を通じて、会社の繁栄と社員の幸福増進の一致を計り、社会の恩恵に報いることを使命とします

経営方針

三方一両得の精神に基づき、異色ある価値創造企業として、世界をリードするお客さまのものづくりを支え続け、社員を強みの源泉とした地域に根差したグローバル企業を目指します

行動規範

～当社における活動（行動）の軸を示したもの～

「顧客第一」「基本重視」「フェア」「チャレンジ」「スピード」「コミュニケーション」

製造

商事

モビリティ



パワートレイン系機構部品
電子制御系関連部品
・ 樹脂成形品、インサート部品
・ コイル部品/組付け
車載光学関連部品



医療・精密機器

ディスポーザブル医療製品
高機能医療関連器具
プリンター関連部品
デジタルイメージング関連部品



エレクトロニクス



【電子部品関連】

高機能材料
・ 薄膜プロセス材料
・ パッケージ材料



配線板関連材料
高機能加工部品、治工具、機器
RFID関連製品、ICカード、ICタグ等

【住宅設備関連】

住宅配管関連部品
給湯器関連部品
家庭用燃料電池関連部材等



※2019年度より「エレクトロニクス」と「住宅設備」を統合し、3つの報告セグメントに変更致しました。

Ⅱ 2020年3月期

第2四半期 決算ハイライト

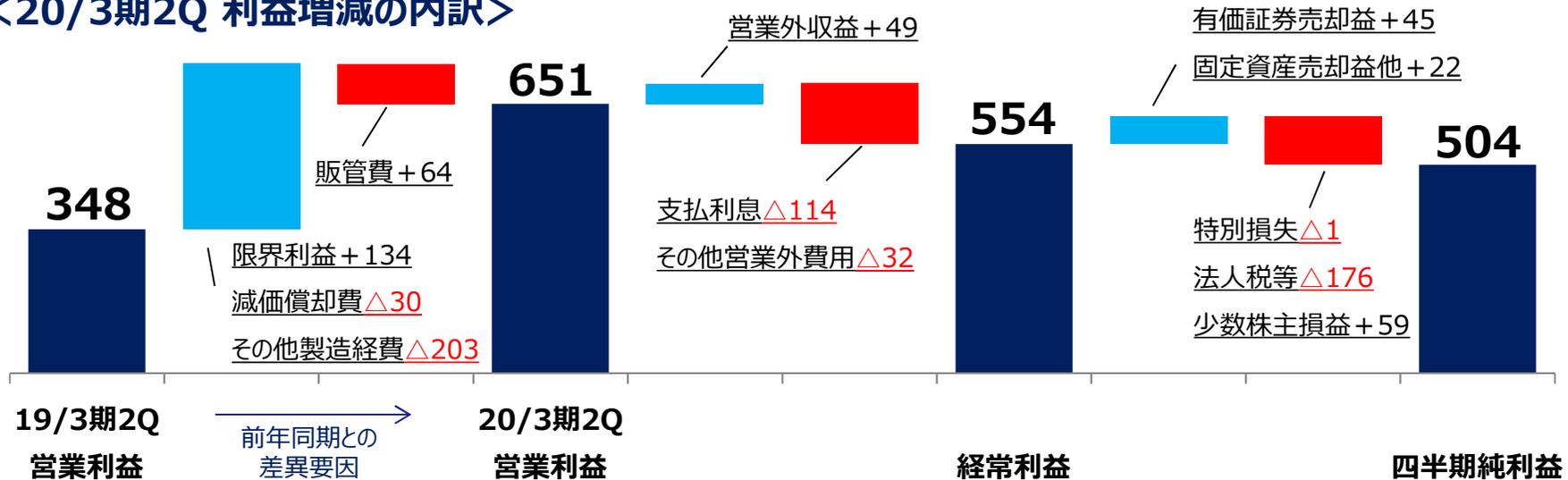
20/3期 2Q 連結業績



(単位：百万円)

科目	19/3期 2Q	20/3期 2Q	前年同期比	増減額
売上高	22,078	21,613	98%	△465
営業利益	348	651	187%	+303
経常利益	182	554	304%	+372
四半期純利益	80	504	624%	+424

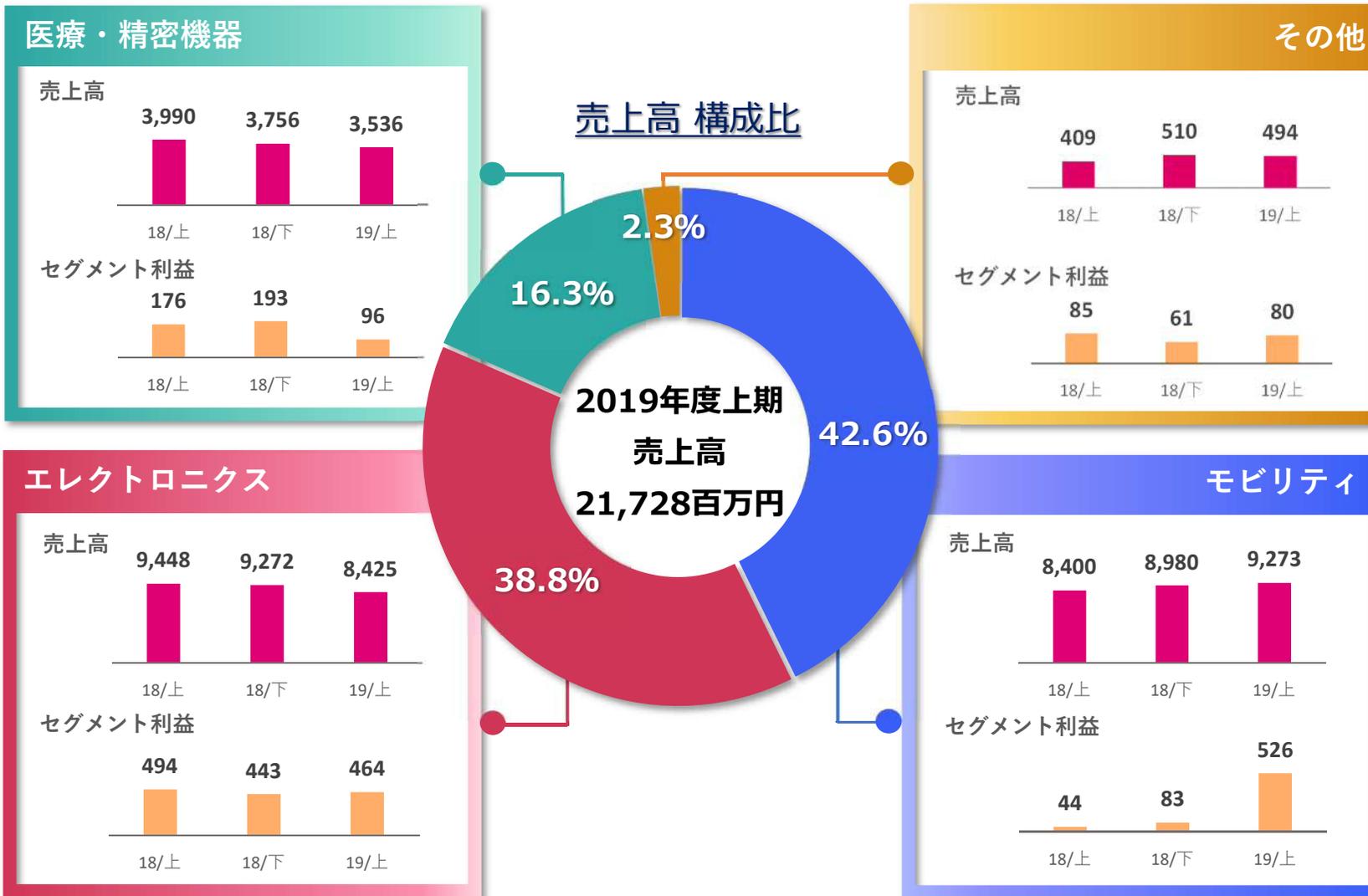
<20/3期2Q 利益増減の内訳>



20/3期 2Q セグメント別業績



(単位：百万円)



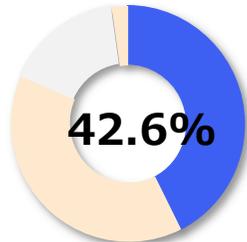
(注) 売上高構成比は、セグメント間売上高の消去前金額です。

セグメント別業績（モビリティ）



売上高構成比

（単位：百万円）



増収

増益

	19/3期 2Q	20/3期 2Q	前年同期比	増減額
売上高	8,400	9,273	110%	+873
セグメント利益	44	526	1,169%	+482

業績概況

- バンコク工場とベトナム工場は、顧客の生産調整の影響により、受注が微減。
- 稲沢工場とジャカルタ工場は、受注が増加。
- 稲沢工場の減価償却負担の軽減と、生産性の改善が進み、増益に寄与。

通期の見通し

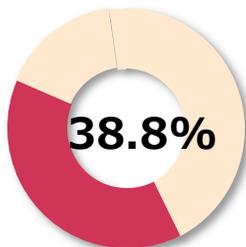
- Tier 1 メーカーの生産計画に下方修正が相次いでいる状況。
- 売上高は、商事活動により上期業績を維持できる見通しであるが、セグメント利益は、製造部門の受注の減少により、上期業績の約10~30%ダウンの見通し。

セグメント別業績（エレクトロニクス）



売上高構成比

（単位：百万円）



減収

減益

	19/3期 2Q	20/3期 2Q	前年同期比	増減額
売上高	9,448	8,425	89%	△1,023
セグメント利益	494	464	94%	△30

業績概況

- ・ スマートフォン関連部材の需要低迷が続き、電子部品メーカー向けの高機能材料の受注が減少。
- ・ 前期好調であった配線板材料は、ハイエンド向け材料の需要が低迷し、受注が減少。
- ・ 住宅設備関連の給湯器部品の受注は堅調に推移。
- ・ ベトナム工場のドライフィルム事業は、中国からの生産移管が進み、受注が増加。

通期の見通し

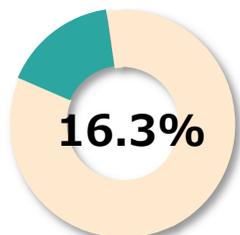
- ・ 次世代通信「5G」の関連部材および家庭用燃料電池の関連部材の受注は増加。
- ・ スマートフォン関連部材および配線板材料の需要は引き続き低迷。
- ・ ベトナム工場のドライフィルム事業の受注は増加。
- ・ 下期は、売上高、セグメント利益ともに上期業績の約5%アップの見通し。

セグメント別業績（医療・精密）



売上高構成比

（単位：百万円）



減収

減益

	19/3期 2Q	20/3期 2Q	前年同期比	増減額
売上高	3,990	3,536	89%	△454
セグメント利益	176	96	55%	△80

業績概況

- 医療機器関連のディスプレイ部品は、堅調に推移。
- プリンター関連部品は、インクジェット向けの受注が減少。

通期の見通し

- 医療機器関連のディスプレイ部品は、引き続き堅調に推移。
- プリンター関連部品の需要は若干の改善。
- 下期は、売上高、セグメント利益ともに上期業績の約5%アップの見通し。

20/3期 通期業績予想



(単位：百万円)

科目	20/3期 2Q	20/3期 通期予想	20/3期 進捗率	通期業績予想と年間配当金について
売上高	21,613	45,000	48.0%	<p>1. 売上・営業利益・経常利益 モビリティ顧客の下方修正が相次いでいる状況ですが、エレクトロニクス、モビリティ商事活動、および医療精密機器の業績見込みを踏まえ、本年5月14日付の通期業績予想を据え置いております。</p> <p>2. 当期純利益 本年5月14日付の通期業績予想は、2つの赤字（広島・メキシコ）の止血策が財務に及ぼす影響を見積った予想値ですが、これに修正が必要と判断される場合は、改めて公表させていただきます。</p> <p>3. 年間配当金 第3四半期決算の発表に合わせて、公表する予定です。</p>
営業利益	651	1,100	59.2%	
経常利益	554	850	65.2%	
当期純利益	504	430	117.3%	
年間配当金	—	未定		



Ⅲ 長期ビジョン

長期ビジョン (全体像)



単年ではなく中期の各累計単位で持続的な成長を計る

フェーズ	事業の選択と捨象、 リバランスを行い 足元を固める期間	財務基盤を安定させつつ、 新たなビジネスモデルの構築に、挑戦する期間	新たなビジネスモデルを もって、 業界内における存在感を向上させる期間
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="background-color: #003366; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">先行投資・種まき</div> <div style="background-color: #6699cc; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">収穫</div> <div style="background-color: #99ccff; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px;">新たな武器・ビジネスモデルの確立</div> </div>			
実現する姿	全事業・全拠点が 収益貢献している (赤字事業・拠点が なくなっている)	先行投資した事業が 収益に大きく貢献している ・NIFコイル事業 ・FNAレンズ事業 ・医療機器事業	持続的成長を牽引する 収益性の高い事業が 各領域で確立されている

長期ビジョン (事業の方向性)



モノづくりの高い技術を武器に、取引先から求められる事業に (+ 下請型ではない事業の追加)

有力パートナー企業とのアライアンスを武器に、当社が介在しなければ成立しない事業に (= オリジナル機能の追加)

医療機器部品のOEMメーカーとして、業界から高い評価を受けている事業に

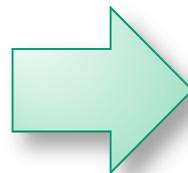
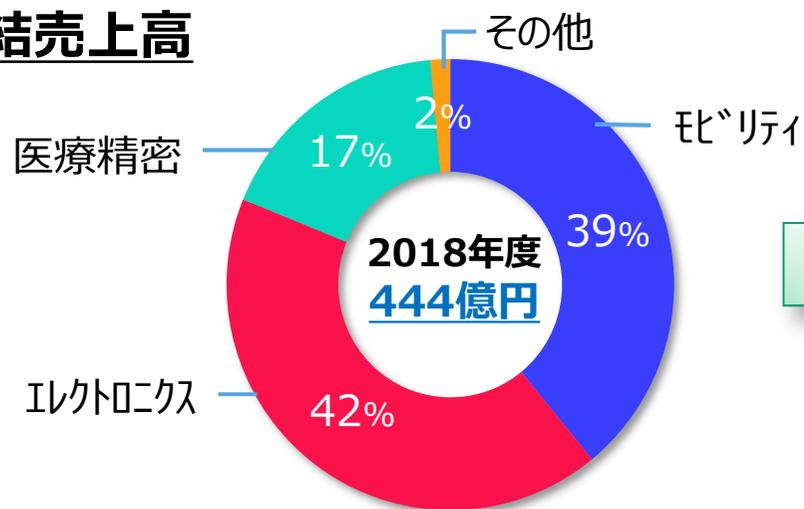
1. 成形品をコアにした、自動車重要保安部品の量産技術を確立する
2. ディスポーザブル製品を中心に精密医療機器の受託生産を拡大する
3. 電子部品を主軸に様々な事業領域で次世代商材を探索提供する



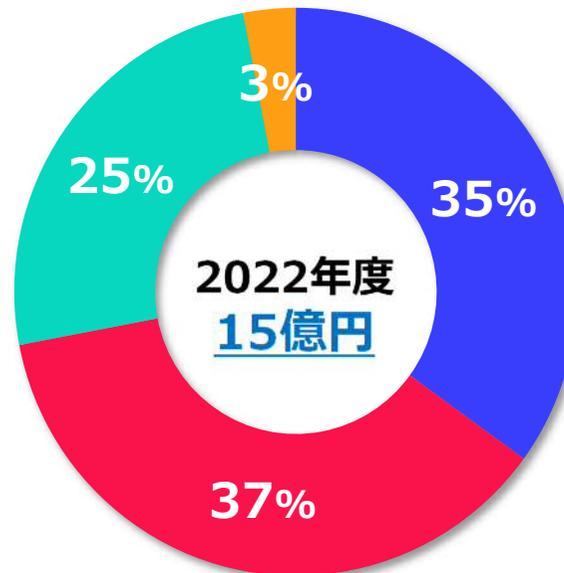
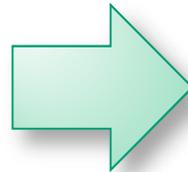
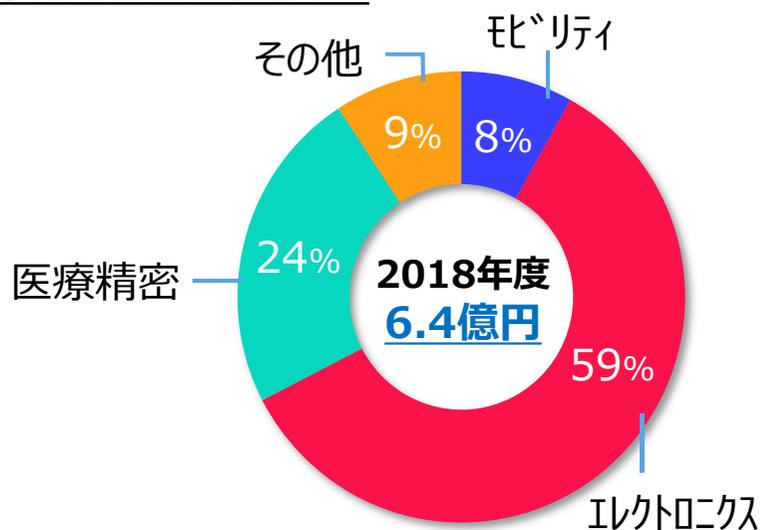
長期ビジョン (セグメント別推移)



連結売上高

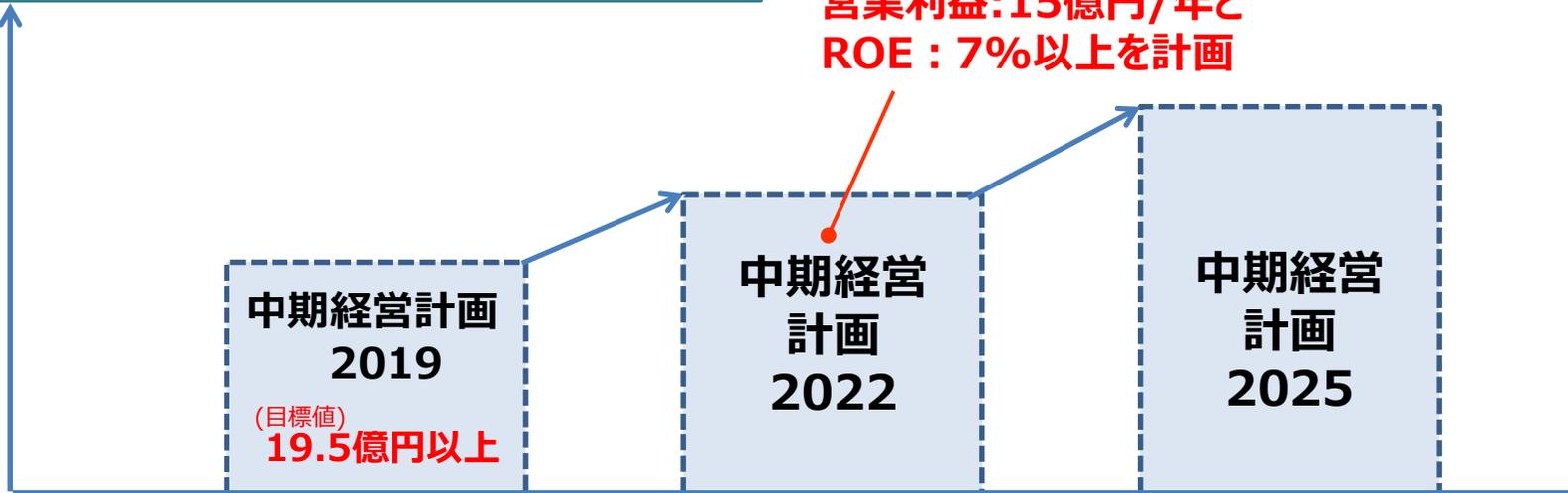


連結セグメント利益



連結営業利益 (3カ年累計値)

本期間内に、過去最高益を上回る
営業利益: 15億円/年と
ROE: 7%以上を計画



ROE > 資本コスト を重視した経営に

ROE	3.5%以上	7%以上	● ● ●
DEレシオ	-	0.6倍程度	● ● ●
配当	持続的な成長に合わせた増配	配当性向25%の実現	● ● ●

中期経営計画
2022
の基本戦略と
各年度目標は
2020年5月に
発表いたします



IV 参考資料

20/3期 2Q 連結貸借対照表

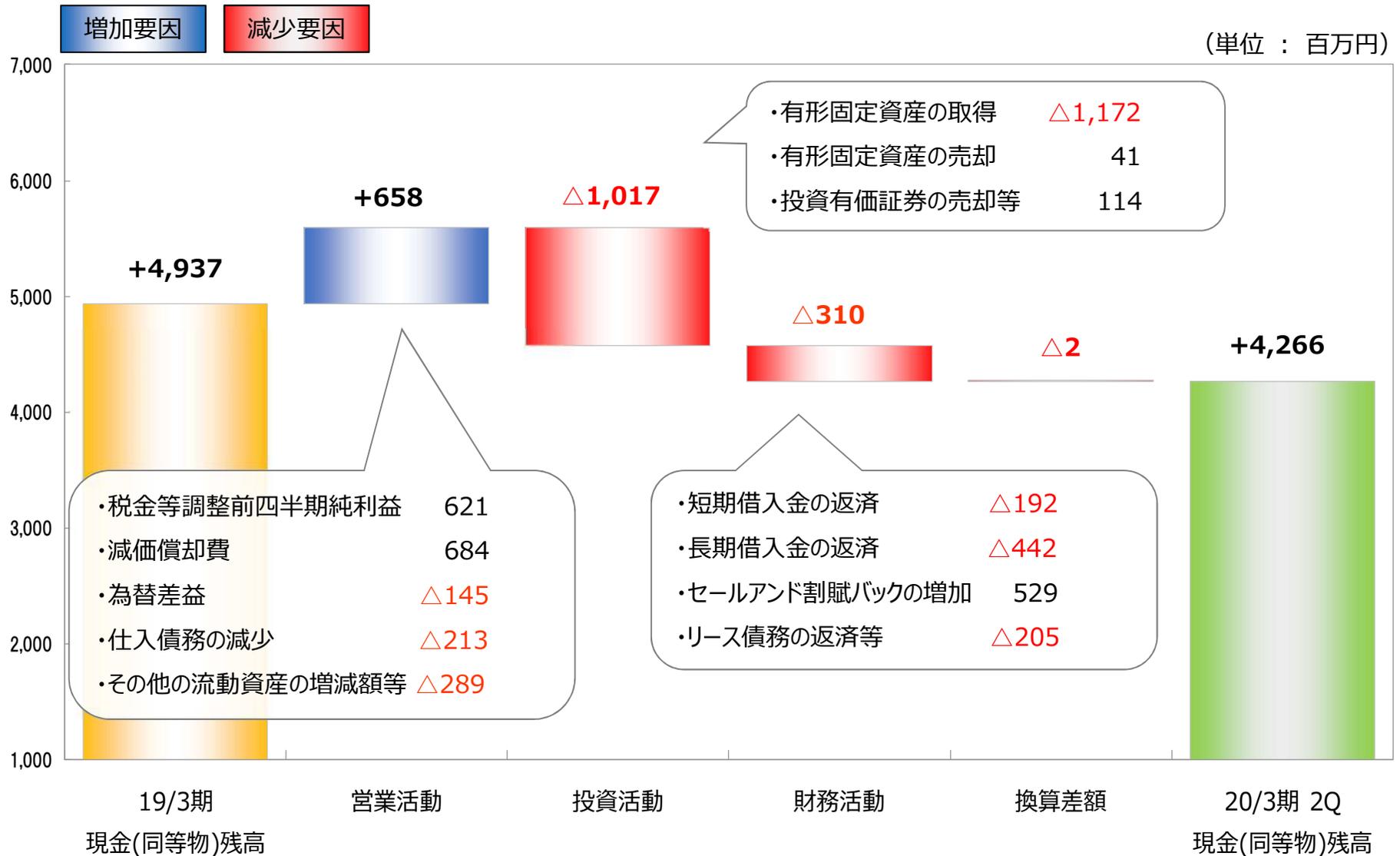


(単位：百万円)

科目	19/3期	20/3期 2Q	増減額
流動資産	15,365	14,675	△690
現預金	4,943	4,272	△671
受取手形及び 売掛金	7,460	7,205	△255
たな卸資産	2,379	2,358	△21
その他	581	839	+258
固定資産	13,922	14,291	+369
有形固定資産	11,011	11,486	+475
無形固定資産	115	123	+8
投資その他の 資産	2,795	2,681	△114
資産合計	29,288	28,966	△322

科目	19/3期	20/3期 2Q	増減額
流動負債	12,248	11,832	△416
支払手形及び 買掛金	7,318	7,104	△214
短期借入金等	2,698	2,455	△243
その他	2,230	2,272	+42
固定負債	7,437	7,218	△219
長期借入金	4,588	4,061	△527
その他	2,849	3,157	+308
負債合計	19,685	19,051	△634
資本金	3,137	3,137	-
資本剰余金、利益剰 余金及び自己株式	5,493	6,008	+515
その他の包括利益 累計額	743	608	△135
非支配株主持分	228	164	△64
純資産合計	9,602	9,915	+313
負債・純資産合計	29,288	28,966	△322

20/3期 2Q 連結キャッシュ・フロー計算書



年月	項目
1952.03.	東邦カーボン製造所の販売部門を母体として日邦産業株式会社を設立する
1968.07.	愛知県一宮市に樹脂成形工場を開設する
1987.11.	台湾(台北)に支店を開設・タイ(バンコク・ミンプリ)に生産子会社を設立する
1991.11.	店頭登録銘柄(現 東京証券取引所 ジャスダック市場)として、日本証券業協会に登録される
1993.02.	マレーシア(ネグリセンビラン)に生産子会社を設立する
1995.06.	タイ(コラート)に生産子会社を設立する
1996.02.	香港に営業子会社を設立する
2002.01.	中国(深圳)に新工場を設立する
2002.10.	ベトナム(ハノイ)に生産子会社を設立する
2003.11.	上海に営業子会社を設立する
2004.12.	株式会社ジャスダック証券取引所(現 東京証券取引所 ジャスダック市場)に株式を上場する
2006.03.	愛知県稲沢市に樹脂成形工場を建設する
2010.09.	富優技研股份有限公司と資本・業務提携する
2011.03.	大阪証券取引所ジャスダック市場(現 東京証券取引所 ジャスダック市場)の貸借銘柄に指定される
2012.06.	インドネシア(ブカシ)に生産子会社を設立する
2013.01.	埼玉県羽生市に営業・生産拠点として、埼玉事業所を開設する
2014.01.	アジアにおける中枢拠点として、タイ(チェチエンサオ)に自動車部品工場を建設(ミンプリ閉鎖)する
2014.04.	メキシコ(サン・ルイス・ポトシ)に生産子会社を設立する
2016.01.	プラスチック成形品の製造・販売を推進するため、広島市に日邦メカトロニクス広島株式会社を設立する
2016.06.	取締役会の監督機能とコーポレートガバナンスを強化するため、監査等委員会設置会社に移行する
2018.07.	愛知県名古屋市に本社を移転するとともに名古屋支店を開設する
2019.07.	メキシコに設立したFNA MECHATRONICS MEXICO S.A. DE CV. (現地法人)を100%出資子会社に変更する

日邦産業株式会社
コーポレート本部 竹中 啓倫

電話 : 052-218-3161
E-Mail : ir@nip.co.jp
HPアドレス : <https://www.nip.co.jp/>

将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における弊社の業績が、現在の弊社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、弊社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、弊社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

なお、本業績見通しにおける為替レートは、1米ドル = 113円、1タイバーツ = 3.3円で計算しています。

Q&A 【2019.11.29説明会の質疑応答】

Q1) モビリティの下期業績は伸長しないのか？

A1) 各自動車部品メーカーによる下方修正の影響を受けており、セグメント利益は上期業績に対して、10%～30%ダウンする見通しです。

Q2) メキシコ工場の収益化が遅れている理由は？

A2) 外部環境は依然として厳しい状況ですが、内部環境を整えて赤字を縮減する取り組みを進めております。

Q3) 医療・精密機器の今後の見通しは？

A3) プリンター関連部品はこの先減少傾向にありますので、医療機器部品の受託生産を拡大することで、この減少をカバーしていく計画です。

Q4) エレクトロニクスの今後の見通しは？

A4) 5Gと家庭用燃料電池の関連部材の増加により、セグメント利益は上期業績に対して5%アップの見通しです。
